

「本気・絆」への挑戦

第3ステージ「たかめあう」ステージに入り、ステージのキーワード「本気・絆」のもと、どの学年も充実した活動を進めています。4年生は11月の「キラリ！ふれあいコンサート」に向けて、練習を続けています。

●11月5日（木） 掛川市生涯学習センター

曲目：「スタートライン」「いつかこの海をこえて」

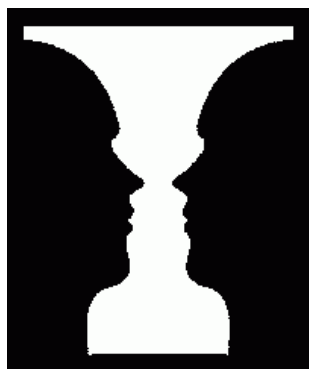


6月ごろから発声練習に取り組み、少しずつきれいなハーモニーが響くようになってきました。当日は練習の成果が発揮できるよう精一杯歌います。

こちらSNE相談室

※ SNE : Special Needs Education
(特別支援教育)

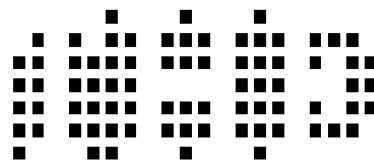
①



②



③



今回も絵柄からのお話です。①の絵は何に見えますか？「杯」に見える方？「2人の顔」に見える方？どちらも正解です。この絵は、デンマークの心理学者ルビンが「図地反転図形」の存在を初めて紹介した「ルビンの杯」という絵です。「図」とは、形として認識される部分、「地」とは、そのとき背景となる部分を指します。「杯」が「図」として認識されるときは、その他の部分は「地」であり、「2人の顔」が「図」として認識されるときは、その他の部分は「地」となります。

このように私たちは、無意識の中で見るべき「図」を「地」から見分けて捉えているのですが、これは「見る」ときだけでなく、「聞く」ときにも同じように、聞くべき「図」と聞く必要のない「地」を聞き分けて捉えています。この無意識に「図」と「地」を見分けたり聞き分けたりすることが苦手な子どもたちがいます。この「苦手さ」は、中枢神経系の傾向からくるものである可能性があります。となると、私がいくら頑張っても遠くの小さな字を見ようとしても「眼鏡」を掛けなければ見えないことと同じような、本人の努力ではどうにもならない「苦手さ」ということになります。見分けにくいものは、大きくして見せたり見るべきところをはっきり伝えたりすること、聞き分けにくいことは、絵柄で見せたり順番をつけて話したりすることなどが、彼らのための「眼鏡」になります。ご心配な点がありましたら、学校も相談に乗らせていただきます。

あっ、②と③のお話をする前に紙面がなくなっていました。それぞれ何に見えるか、ご家族でご覧くださいね。

(特別支援教育コーディネーター 田中和彦)

